⑹　けいれん・ひきつけ

　けいれんとひきつけの意味は同じようなもので、からだ（主に手足や顔）の全体やその一部がカクカクあるいはピクピクと動く様子を表します。ほとんどのけいれんは数分で終わります。
　子供に多いのは熱性けいれんです。熱性けいれんは特に心配することのない病気ですが、その他にもけいれんを起こす原因はたくさんありますので、初めてのけいれんの場合は、医療機関を受診した方が良いでしょう。

医療機関救急受診のポイント

（救急外来を受診しましょう）

- はじめてのけいれん
- 頭を打った後などにけいれんを起こした
- 長時間（概ね５分以上）けいれんが続く
- １日に２回以上繰り返した
- けいれんのあと、しばらくたっても反応がない
- けいれん後、しばらくしても顔色が悪い

家庭での対処方法のポイント（Ｑ＆Ａ）

Ｑ１ けいれんを起こした子どもに対する注意点は？

　けいれん中は顔と体を横に向けて、口の中に入っている食べ物や唾液が気管に入らないようにします。口の中を傷つけたりするおそれがありますので、はしやスプーン、大人の指などを口の中に入れることはしないでください。
　また、けいれん中にゆすったり、たたいたり、飲み物や飲み薬を与えたりしないでください。

Ｑ２ けいれんを起こすと後遺症が残りませんか？

　普通のけいれんでは、後遺症が残ることはまずありません。しかし、けいれんが１時間以上続いたりすると、後遺症の心配があります。
　また、けいれんの原因が、脳炎、髄膜炎（ずいまくえん）、急性脳症であれば後遺症を残す可能性が高くなります。

この症状によくみられる代表的な病気は？

- 熱性けいれん
- てんかん発作
- 脳の感染症（脳炎、髄膜炎(ずいまくえん)など）
- 脳内出血などによる急性けいれん
- 泣き入りひきつけ